

行政調査報告書「未来型スマートまちづくり特別委員会」

令和7年10月29日～31日

■宮崎県日向市 『日向市駅周辺のまちづくりについて』

1990年代以降、郊外大型店の出店や人口の郊外流出により、中心市街地の衰退が顕著となり、日向市駅周辺の活力が低下していた。鉄道の高架化を契機とし、土地区画整理事業、商業集積整備事業及び交流拠点施設の整備を総合的に進めている。また、駅舎や駅前広場、沿道空間も含め、トータルコーディネートされたデザインを実践した。ハード整備だけでなく、市民の主体的な活動を通



じたソフト面の充実も図られてきた。地域の資源や人材を生かし、市民との継続的な対話を通じて地域全体の魅力向上に取り組んでいくことは、本市においても大変重要と考える。

■株式会社大分まちなか倶楽部（大分県大分市） 『中心市街地の活性化について』



「大分まちなか倶楽部」は、大分市の中心市街地活性化を図るため、官民協同のまちづくり機関として設立された。出店サポートセンター事業、プロモーション事業、広報事業を基幹事業とし、その他様々な自主事業も展開している。行政、商工会議所、商店街及び大型店が一体となり、「点」ではなく「面」としてつなげて、中心市街地の活性化を推進している。また、人流データを活用し

たマーケティング分析を通じ、出展支援や公共空間の利活用をデータに基づいて展開するなど、戦略的なまちづくりを行っている。本市においても、官民連携によるエリアマネジメントや、データを活用した実効性ある施策展開が重要だと感じた。

■広島県福山市 『福山駅周辺の再生と駅周辺デザイン計画について』

福山市は、市の顔であり備後圏域の玄関口であるJR 福山駅前の賑わいを取り戻すため、「福山駅前再生ビジョン」を策定し、それを具体化する「福山駅周辺デザイン計画」を取りまとめ、まちづくりの方向性を示し実行プロジェクトを段階的に推進している。会議の見える化や意見聴取に力を入れるという市の方針のもと、協議会やワークショップなどを通じて市民の意見を聞き、市民がまちづくりの進捗や将来像を共有できるよう努めている。行政がまちづくりの方向性を示し、民間企業や市民を巻き込みながら合意形成を図っていく手法は参考となった。

